

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語、算数ともに平均正答率は全国よりも本校の方が高いが、東京都と比べると低かった。特に短答式で書く問題の正答率が低かった。
○児童は学習に対して意欲的で主体的に取り組む姿勢が見られる一方、自分の考えを論理的に説明したり、情報を適切に処理したりすることに課題が見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○自分の考えを論理的に説明したり、情報を適切に処理したりすることに課題が見られる。
○基礎的な技能の習得に課題あり、既習事項の理解や定着に課題がある。
○児童ひとり一人の習熟度の差が大きく、個々の児童の実態に応じた指導が必要になる。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 子どもを真ん中にした教育
- ・自己調整型の学び
 - ・異学年齢での学び合い
 - ・子どもたちによる自治的な活動
 - ・探求的な学び
- 読み解く力を基盤とした、板橋区授業スタンダードの徹底、板橋区授業スタンダードSの推進
- ・板橋区授業スタンダード
 - ・学習課題及びめあての設定 → 自己解決 → 集団解決 → まとめ・振り返り
 - ・板橋区授業スタンダードS（セルフ セレクト）
 - 自己選択 自己決定 自己調整

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードと 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○全学級で授業の最初に「めあて」を提示し、そのめあてに対して、どのように進めるか見通しをもたせて自力解決を行うようにする。また、児童が自己選択・自己決定・自己調整ができる場面を設定する。	○デジタル教科書を使って、児童が視覚的に理解できるようにする。 ○タブレットを使って、児童一人ひとりの考えを集めたり発表したり共有したりする。 ○すららドリルや「東京ベーシックドリル」などを活用して家庭学習の習慣化を図り、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	○各教科で、課題設定→自分の考え→友達との考え（根拠を示す）→分析・考察→まとめ・表現→振り返り→新たな課題の設定というスパイラル型の授業展開を行うことで、主体的に課題に取り組む態度を育てる。

■MIRAI SCHOOL いたばしー教育ビジョン2035・アクションプラン2028—の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	確かな学力の育成	安心・安全に学べる居場所の充実
○学びのエリアの小学校と中学校の教職員が集まり、9年間の子どもの成長に必要な仕組みや指導について話し合う中で、共通理解を図り、共通行動につなげていく。 ○保育園や幼稚園の職員の聞き取りと、今年度の1年生の実態に合わせて、来年度のスタートカリキュラムを見直す中で、保幼小の接続がうまくいく指導法や環境づくりを模索する。	○学校独自で設定した坂下小授業スタンダードに基づき、問題・めあての設定、見通し・キーワードの確認、自力解決、交流学び合い、集団検討、まとめ、振り返りを毎時間取り組むことで、主体的に学習に取り組む児童を育てる。 ○今年度は校内研究で体育科の授業研究を行う。板橋区授業スタンダードSの授業展開を構築する中で、体育以外にも実践を広げていく。	○校内に安心して学べる居場所（ウェルカムルーム）を設置し、学校に登校するのが難しい児童、教室の中で学習するのが難しい児童が過ごせるようにする。学級担任だけでなく、養護教諭やS・S・W・S・Cなど、学校全体で体制をつくり、児童が安心してすごせる環境を整える。 ○ステップアップ教室拠点校としての強みを生かして、校内委員会で見守り理解や指導方針等の検討を行い、一人ひとりの実態を理解し実践に活かしていく。